



ふるだて あんなちゃん  
(6さい)

フィギュアスケートって  
とっても きれい。フィ  
ギュアスケートの せん  
しゅに なって しろい  
ドレスを きて とんだり  
まわったり したいな。



摩周丘幼稚園のおともだち

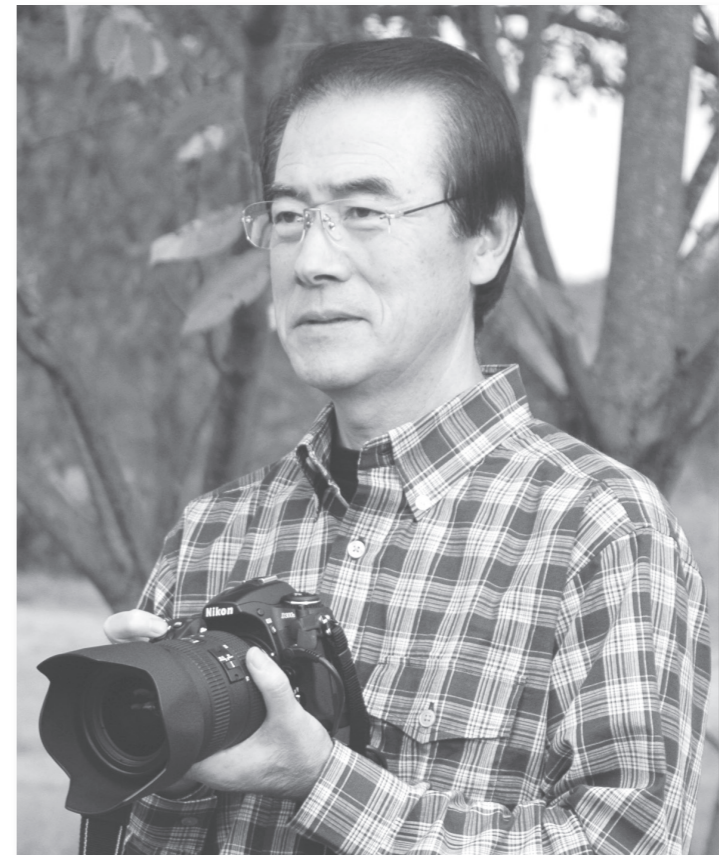


たけうち ちひろくん  
(6さい)

けいさつかんに なりた  
いんだ。けいさつかんは  
がっこいいんだよ。パト  
カーに のって わるい  
ひとを つかまえに い  
くからね。

がんばっているあなたがすぎ

シリーズ・ひと



水谷 博之さん(65歳・泉5)

一瞬の光を追い求めて  
オンネトー物語フォトコンテストで北海道新聞社賞に輝いた

写真歴は40年以上という水谷さん。本格的に撮り始めたのはここ10年くらいのことだそう。以来数々のフォトコンテストに入選しています。今回は、あしよる観光協会など主催のコンテストで、155点の中から2位に当たる北海道新聞社賞を受賞しました。

「自然が好きで、最初から一貫してネイチャーフォトにこだわってきました。電柱などの作物や人物を一切入れずに自然のみを、太陽を中心に、つまり逆光で撮影するのがわたしのスタイルです。写真の撮り方には、人それぞれいろいろな志向や技術があると思いますが、わたしはそうした写真を撮り続けてきました。わたしのテーマは「瞬の光を追い求める」と。自然界における光の作用というのには本当に素晴らしい、撮りたい一瞬のためにその場所に通り詰めています。

撮りたいものを撮るための努力は、並大抵ではありません。四季折々に道東一円を回って写真を撮っています。ネイチャーフォトといっても、一つのテーマに絞っている方が多い中、わたしは植物、太陽や月などの空、動物など、ありとあらゆる自然を被写体としているため、情報の収集が大切です。

摩周湖など何度となく足を運んで、季節ごとの撮影データを収集したものもありますが、その土地に住んでいる方がいないからこその、好きな写真を撮れるのだとも思っています。仲間には感謝ですね。

こうして長く自然を見つめてきた水谷さんには、最近気になることがあるそうです。

「あまりいい意味ではない変化を感じます。朝焼けや夕焼けなど、これまでのような色彩が出なかつたり……。昨今よくいわれる地球温暖化の影響があるのかも感じています。

水谷さんの目指す今後とは。一妻も写真を趣味としています。お互いに健康で、写真を撮り続けられる喜びを日々感じています。写真は、撮る喜びはもちろん、見ていただく喜びもありません。自分が撮りたいものを撮った写真が、いろいろな方の目を通して、いろいろな感想や思いが引き出されることがうれしい。これからは、仲間と楽しみながら写真を続け、再度、個展なども開催していけたらと思っています。



舞踊サークル華  
代表・金子 秀子 さん  
会員・3人



舞踊サークル華(前列)と総合舞踊ゆかり会の皆さん  
後列右から2人目が代表の金子さん

以前、このコーナーでもご紹介させていただいた「総合舞踊ゆかり会」。民謡や詩舞、歌謡舞踊など、日本舞踊に関係するさまざまな踊りを学ぶサークルです。ゆかり会の中で



おけいこの様子

踊りを楽しむことが基本ですが「最近三味線の曲に親しむ方が少なくなり、会の踊りも歌謡舞踊が中心になりがちですが、年に一度は長唄のような古曲を学んでいきます」と、吉野さんは話していました。

も、比較的新しい会員さんを対象にしているのが「舞踊サークル華」です。結成は2002年。「ゆかり会は50年以上の歴史があり、長い方は30数年にわたっておけいこをしています。ゆかり会は、会員個人個人の個性を生かした踊りを指導することとしていますが、経験の少ない方たちが一緒に大変だろうと、新人会員を対象としたサークルを別につくりました」と話すのは、ゆかり会の代表であり、両サークルで踊りの指導を行う吉野孝さんです。

会員の皆さんは意欲的な方ばかりだそう。取材に伺った日は町の総合文化祭目前ということもあり、より一層おけいこに熱が入っているとのことでした。ゆかり会の皆さんも、自分のおけいこのほかに、サークル華の皆さんの指導を行うなど、自発的に取り組んでいます。